

●目的

目的の動作をいかに効率よく創り出すかを、自由な発想をもとに、実際に製作を通して追究させてきた。この試行錯誤的な追究活動が、材料の特性や機構の仕組みなどを直接的に学びとることになる。また、その根本にある科学的な根拠をおさえることにより、実生活で応用できる力となっていくと考える。

●効果

生徒の個性に満ちた発想を生かして、目的をもった動きを作り出し、操縦どおりに動く機械を作らせ、その機械でゲームを行うことによって生徒は熱中し、主体的に学習に取り組み、互いに高め合いながら指導を進めて効果をあげた。

